

令和4年5月吉日

紅 橈 会 報 (第 2 号)

風薫る季節となり、会員の皆様にはご健勝にお過ごしのこととお喜び申し上げます。

平素は、紅橈会並びに漕艇部の活動にご支援・ご協力をいただきまして、厚く御礼申し上げます。

新型コロナウイルスの感染拡大に伴う重点措置が3月21日に解除され、それ以降も大学側の課外活動への規制は続いておりますが、6月12日の神戸大学との定期戦以降、今シーズンの試合日程は例年通り予定されております。

今シーズンの現役の活躍に期待して、紅橈会報をお届けいたします。引き続き、温かいご支援をお願い申し上げます。

ご 挨拶

紅橈会会長 中江幸男

拝啓 立夏の候、皆様方には益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

平素より紅橈会活動にご理解とご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

今期も、コロナ感染防止対策で多くの制約のある中で、強化練習がスタートいたしました。しかし現役諸君は厳しい環境下でも、懸命に創意工夫を凝らし一定の成果を残しております。

この4月、大阪公立大学が発足し、現在我々は「大阪公立大学市立漕艇部」として活動しております。旧府立大学漕艇部との統合は、当初令和6年10月の予定でありましたが、諸般の状況により来シーズンより統合の方向で準備を進めております。

統合後、新組織が量質併進の大学を代表する漕艇部となる様、我々紅橈会が指導的役割を果たし、新たな公立大学の伝統を築いてまいる所存であります。同時期に紅橈会も飛翔会と統合し、会員数約1,000名を有する現役支援組織となる予定であります。

詳細につきましては旧府大側との打ち合わせを重ねており、10月の定時総会には全容をお示しさせていただきます。

今後とも会員の皆様の倍旧のご高配をお願い申し上げます

敬具

2022シーズン いよいよ本番

監督 道幸浩之

2022年度シーズンから市大漕艇部の監督を委嘱され、諸先輩方の取り組みで築き上げられてきた市大漕艇部の歴史、組織、体制をさらに強固なものにすべく半年間取り組んでまいりました。しかし、2022シーズンも残り半分になった今、前々年度から引き続きコロナ禍による多くの制約もあり、意図していた練習が十分にできず、各クルーの仕上がり状態も思い描いていた状態とは大きな乖離があるというのが現状です。また、漕艇部にとって重要な課題である新人勧誘についても、その活動に大学側から諸々の制限をつけられており、入部者の確保も思い通りに進んでいません。そのため、この5月に新人勧誘活動について仕切り直しを行い、7月末まで勧誘活動を継続することにしました。紅橈会会員の皆様からも新人勧誘活動について効果的な方策についてアドバイスをいただければ幸いです。よろしくお願いいたします。

今シーズン、これまでに参加した大会は3月のお花見レガッタ（戸田）と4月の西日本選手権（浜寺）です。お花見レガッタは、コロナ禍の影響で大学から艇庫利用を禁止されていたのですが、少しでも早く禁止解除していただく目的で急遽エントリーしたもので、乗艇練習を再開して1か月もない状態での参加でした。結果的には付フォアが5位と健闘はしましたが、上位クルーとは大差があり課題の多い結果でした。案の定、西日本選手権では各クルーとも他クルーとの実力差を見せつけられる結果となりました。（エイトは大会結果上優勝となっていますが、3クルーのみのエントリーで、他2艇はトラブルがあり失格扱いとなったものです。予選1回目の結果はその2クルーに大差をつけられており、事実上は大敗と言えます）。他大学クルーがコロナ禍の中でもある程度、乗艇練習ができていたことを考慮したとしても、多くの課題を残しました。

今シーズンの残りの大会は、全日本選手権（海の森）、定期戦（浜寺）、関西選手権（浜寺）、全日本大学選手権（戸田）です。いよいよ今シーズンのメインレースが続きます。この会報発行時点で既に全日本選手権は終わっていますが、エントリーしている男子ペアと付フォアの現状の仕上がり具合では最終日に残ることは厳しいと思われます。全国の強豪クルーと比較し自分たちには何が欠けているのかをしっかりと把握して、その後の活動に活かすレースにする所存です。それなくしてはその後のレース

でも思い描いているような結果を残すことはできません。

今後のレースにおいて結果を残すためには、日頃のコーチ会議でも言っていることですが、スタートから300mまでのスタートダッシュの練習に従来以上に取り組む必要があります。スタートで出遅れるクルーはどんな大会であっても決勝まで勝ち残れません。また、コンスタントレートも強豪クルーと比較すると2～3は低いのでハイピッチでの練習も多くし高レートでもしっかり漕ぎ切れるよう指導していきます。各コーチにもこのことを日頃から口酸っぱく指導するよう指示しています。

さて、この4月から市立大学と府立大学が統合し大阪公立大学が誕生しました。両大学の漕艇部は当初、新しく森之宮キャンパスが開校する2025年4月(実活動は2024年10月)としていましたが、諸般の事情により2023年4月(実活動は今年10月)に繰り上げる予定です。既に女子は合同クルーを組んで活動しており、今年の新入部員についても定期的に合同練習を実施、定期戦の新人戦や関西選手権時に開催される浜寺杯についても合同クルーで出場する予定です。4月には両部のメンバーにより統合PTを立ち上げ、新生「大阪公立大学漕艇部」がスムーズにスタートできるよう取り組みを始めました。(市立側からは上野紅憐会副会長、藤本現役指導部長、私の3名もこのPTに参加しています。)また、皆様も興味を持たれているであろうオールのブレードのカラー、デザインについても皆様の意見も参考にしつつ検討をしております。なお、今シーズンの大会参加に当たっては、クルー名は大阪公立大学市立、大阪公立大学府立としてエントリーします。

最後に、新しく指導陣に加わっていただいた方をご紹介します。

中野紘志氏 (一橋大学 OB)

中野氏は大学卒業後、NTT東日本に入社し全日本選手権で複数回優勝経験あり。現在は同志社大学院でスポーツ指導者としての勉学に励みつつ、ボート競技の指導者として、同志社、大阪工大等の漕艇部の技術指導に当たっておられます。当部は安東秀人ヘッドコーチからの紹介により、お世話になることになったものです。

☆漕艇部の統合と OBOG 会の動き

1. 漕艇部の統合

昨年 11 月の第 27 回定時総会で、漕艇部は 2024 年 10 月までは 1 大学 2 団体として存続していくと報告しました。今年の 4 月から、旧市立大学漕艇部は「大阪公立大学市立」として、旧府立大学漕艇部は「大阪公立大学府立」として、日本ボート協会等の上部団体に登録しています。

しかしながら、その後部員数の減少（特に府立の女子漕手が 1 回生を除いて 1 名）、桜の宮・浜寺 2 か所の有効活用などの観点から、早期に統合すれば部員数が増加し出漕できる艇の多様化や練習の強化が図れるということで、4 月 17 日開催の第 2 回紅槳会幹事会において、来シーズンからの統合を目指すことになりました。

2. OBOG 会の動き

OBOG 会としても、従来は 2024 年 10 月に新たな団体を立ち上げることにしていましたが、漕艇部の統合が早まることに合わせて 2022 年 10 月から新しい団体を立ち上げることを、4 月 17 日の情報交換会で飛翔会と合意しました。今後は、飛翔会との新 OBOG 会立ち上げの協議を加速させて、10 月開催予定の第 28 回定時総会において、必要な事項（新 OBOG 会の名称、会則、組織、役員、ブレードカラー等）の承認を得たいと考えております。

☆活動のご報告

令和 4 年 1 月 8 日(土)

櫻宮神社で必勝・安全祈願

現役と一緒に、人数を絞って参拝しました。

第 1 回紅槳会幹事会

令和 4 年 2 月 7 日(日)

府立大学飛翔会との第 8 回情報交換会

統合スケジュールが、当初予定から 1 年早まる可能性を考慮して検討を進めて行くことで合意。新 OBOG 会則の内容について検討。新 OBOG 会の名称、ブレードカラーについて意見交換をする。

令和 4 年 3 月 19 日(土)

会長以下主要役員による会議

来シーズンからの漕艇部の統合を想定して、対応を進

めていくことで合意しました。

令和4年4月9日(土) 会長以下主な現役員と前役員の主な方々との懇談
漕力強化とOB会の在り方について、ご意見を伺う。

令和4年4月17日(日) 第2回紅橈会幹事会
府立大学飛翔会との第9回情報交換会
来シーズンからの漕艇部の統合を想定して、新OBOG会も令和4年10月の発足を想定して取り組むことにする。新OBOG会の会則・組織について合意。引き続き、新OBOG会の名称、ブレードカラーについて意見交換をする。

☆今後の活動予定

令和4年5月28日(土) 第3回紅橈会幹事会

令和4年6月12日(日) 神戸大学との定期戦・現役との懇親会(浜寺)

令和4年7月2日(土)、3日(日) 関西選手権(浜寺)

令和4年7月25日(月) 天神祭りの夕べ(桜の宮艇庫)

(新型コロナの感染状況によっては中止することがあります。)

令和4年8月20日(土) 第4回紅橈会幹事会

令和4年9月8日(木)～11日(日) 全日本大学選手権(戸田)

令和4年10月8日(土) 第5回紅橈会幹事会

令和4年10月中旬 第28回紅橈会定時総会

令和4年10月21日(金)～23日(日) 全日本新人選手権(戸田)

※会員の訃報

多田和夫様(S47年卒) 令和3年12月ご逝去

高田正彦様(S36年卒) 令和4年2月ご逝去

慎んでお悔やみ申し上げますとともに、ご冥福をお祈り申し上げます。

☆R4 年度紅橋会会費納入状況

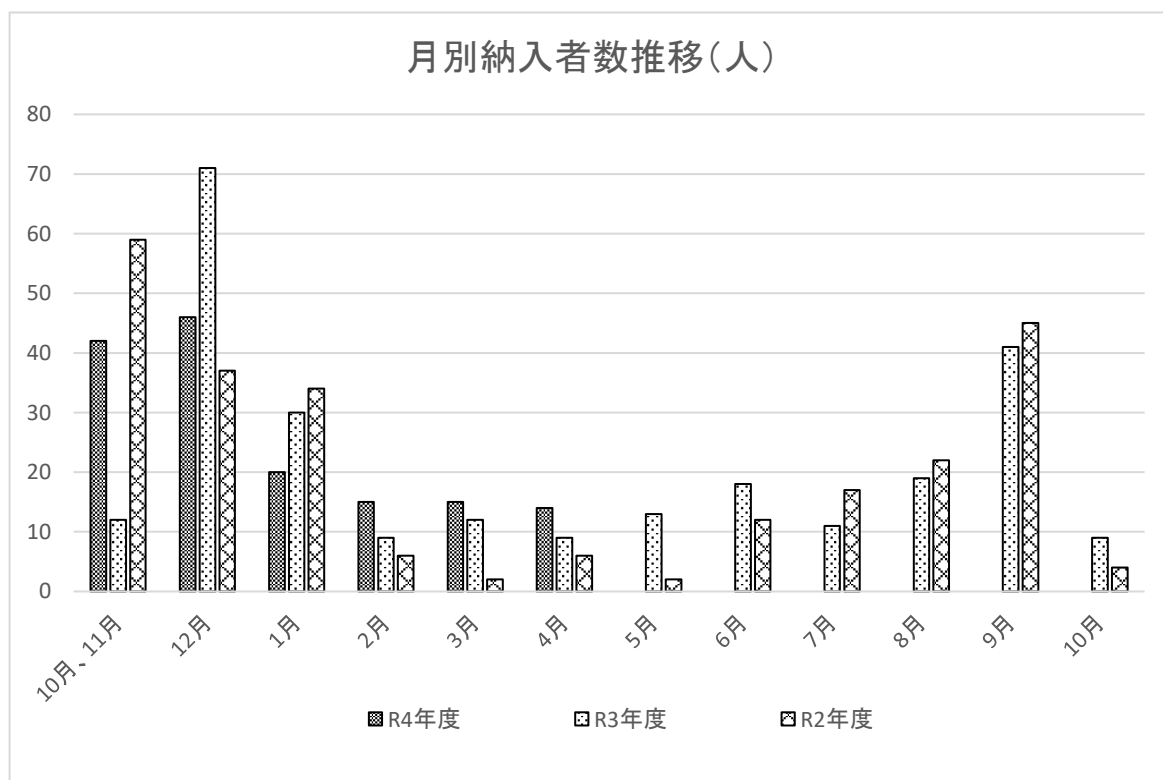
過去5年間の会費納付状況は、平成29年の270名、455万円、16,852円/人、から減少の一途をたどっており、R3年は246名、382万円、15,508円/人、でした。R4年度はR3年度の実績の約10%増の270名×15,000円=405万円を予算計上しています。

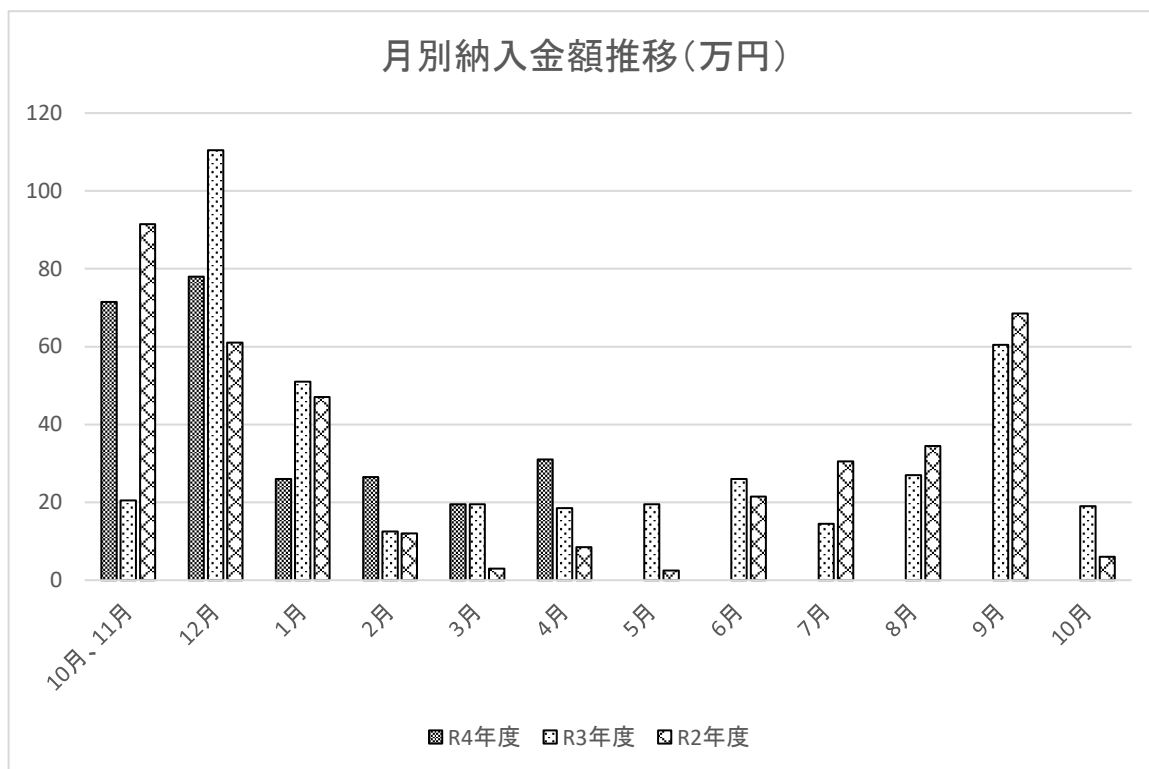
この4月末時点での累計は151名、2,525千円で、この中には大口の納付や、今年度二度目の納付をいただいた方がおられ、R3年度の4月末時点の143名、2,325千円を上回っています。

R3年度9月末までに納入いただき、今年度未納入の方は115名(R3年度納付額1,635千円)で、これら115名の方の過去5年間の納入率：約81%、(会員5年未満の方は当該期間に対する納入率を計算)を当てはめて試算しますと、この5月以降の会費収入は、93名、1,324千円で、今年度として244名、3,849千円が達成可能性の高い数字です。

今後、現役から会員皆様への依頼の結果として更なる上乘せ、R4年3月卒の新会員の納付等が加わり、R4年度の会費予算4,050千円の何とか達成できればと考えておりますので、会員皆様のご協力、ご支援を何卒よろしくお願い申し上げます。

以下ご参考までに、月別納付人数、金額の推移のグラフ





☆会報・部報等のメール送付について

従来、会報・部報等は郵送しておりましたが、毎年、会費納入の厳しい状況が続いており、郵送料(昨年総会後の会報送付料 133,500 円)・印刷代(69,850 円)等の削減と併せて、封入に関わる作業の軽減のため、会報・部報等の送付を郵送からメールに切り替えさせていただきたいと考えております。メール送付を了承いただける方は名簿担当・長谷 hases@pg8.so-net.ne.jp 宛にご連絡いただければ幸いです。

なお、メール送付に切り替えさせていただける会員で郵便振替或いはコンビニ振替で会費納入いただける方は、その旨連絡いただければ振替用紙を郵送いたします。ご協力をよろしくお願い申し上げます。

また、ご住所等に変更がありましたら、名簿担当・長谷又は艇庫までご連絡をしていただきますようお願い申し上げます。